

生ごみのリサイクル手法の比較

項目	ケースA	ケースB	ケースC	ケースD
	焼却処理	小さな地域での堆肥化	大きな地域での堆肥化	大きな地域でのバイオガス化
先進事例	(現状)	町田市、川崎市	長井市	砂川地区保健衛生組合
①環境負荷(二酸化炭素排出量)	17,400(t-CO2/年)	17,800(t-CO2/年)	17,900(t-CO2/年)	16,600(t-CO2/年)
②経済性(コスト)	28.3(億円/年)	28.3(億円/年)	30.2(億円/年)	29.1(億円/年)
③リサイクル量	0(t/年)	4,400(t/年)	21,000(t/年)	21,000(t/年)
④リサイクル原料の確保	—	容易	多少困難	比較的容易
求められる分別精度	分別の必要性なし	高い精度が必要	高い精度が必要	ある程度の精度が必要
処理エリア	広い	狭い (排出者、利用者が特定)	広い (排出者、利用者が不特定)	広い
⑤排出者の負担	—	現状(一部非常に高い)	高い	高い
分別区分	無	無(一部有)	有	有
⑥リサイクル製品の利用先の確保	確保は容易	確保は容易	すべての堆肥の利用先を確保できない可能性がある	確保は容易
リサイクル製品(利用方法)	熱(発電、温水利用など)	堆肥	堆肥	バイオガス(発電、燃料など)
利用先	施設内	家庭、公園、農家等	家庭、公園、農家等	施設内
⑦処理施設の規模	熱回収施設: 320(t/日)	熱回収施設: 310(t/日)	堆肥化施設: 100(t/日) 熱回収施設: 270(t/日)	バイオガス化施設: 70(t/日) 熱回収施設: 270(t/日)
⑧アンケート調査結果	49.8%	28.0%	16.9%	